

(5) 東海



東海地域では、景気は極めて急速に悪化している。

- ・ 鉱工業生産は極めて大幅に減少している。
- ・ 個人消費は緩やかに減少している。
- ・ 雇用情勢は極めて急速に悪化しつつある。

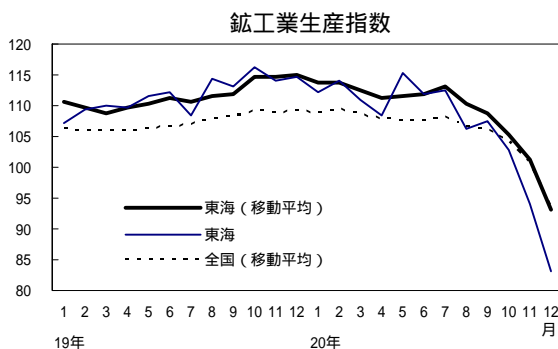
前回調査からの主要変更点

	前回（平成20年11月）	今回（平成21年2月）	
景況判断	弱まっている	極めて急速に悪化	
鉱工業生産	減少	極めて大幅に減少	
個人消費	おおむね横ばい	緩やかに減少	
住宅建設	大幅に増加	減少	
雇用情勢	悪化しつつある	極めて急速に悪化しつつある	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は極めて大幅に減少している。

輸送機械は、自動車部品や乗用車を中心に、大幅に減少している。一般機械は、金属工作機械を中心に、大幅に減少している。電子部品・デバイスは、電子回路基盤やテレビ向け液晶素子を中心に、大幅に減少している。プラスチック製品は、プラスチック製輸送機械用部品を中心に、大幅に減少している。化学は、医薬品が増加したものの、プラスチックが落ち込んだため、全体では減少している。



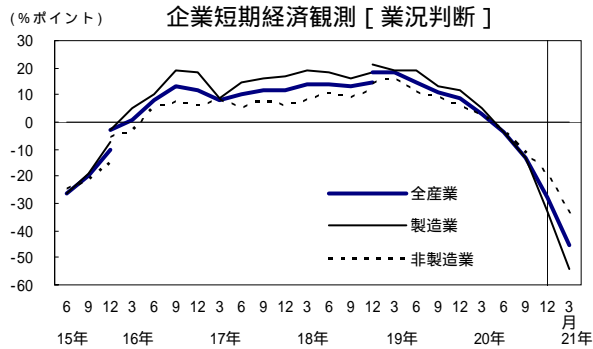
- (備考) 1. 17年=100、季節調整値。
2. 全国及び東海の太線は後方3か月移動平均。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

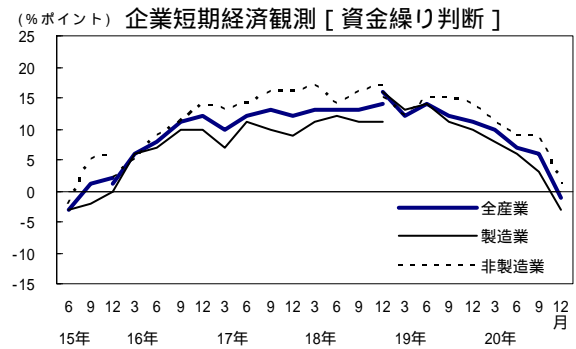
	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		7~9 月期	10~12 月期	10~12 月期	10~12 月期
輸送機械	37.5	2.8	18.5	18.3	25.4
一般機械	12.7	3.4	15.7	18.2	0.0
電子部品・デバイス	6.8	8.5	18.6	19.1	66.0
プラスチック製品	5.4	0.1	12.0	11.6	3.6
化学	5.0	2.8	4.6	8.1	7.5
鉱工業	100.0	2.8	14.3	14.5	0.8

- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。
2. 生産指数は東海。出荷、在庫指数は中部。

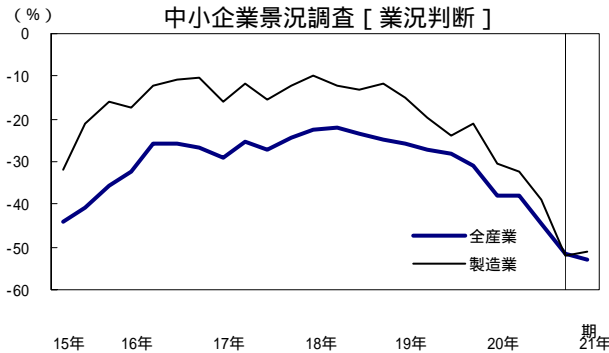
(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「苦しい」超に転じている。
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。21年3月は予測。
15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。21年 期は見通し。
中部地区。

景気ウォッチャー調査(1月)[企業動向関連(現状)]

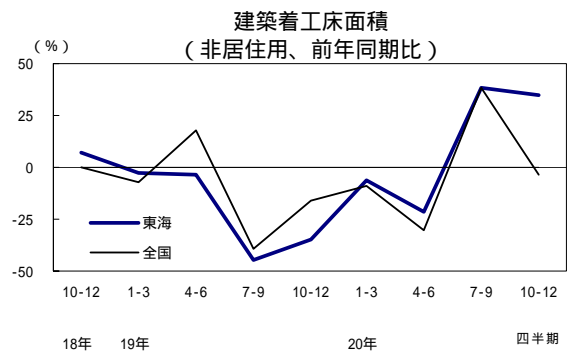
「廃業する企業が増加しており、製造業では休業して国の助成金を申請する企業もある(会計事務所)」など、「悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(3) 20年度の設備投資は前年度とほぼ同水準の計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(12月調査)]

	(前年度比、%)	
	19年度実績	20年度計画
全産業	6.4	1.2 [1.8]
製造業	0.4	1.8 [1.2]
非製造業	18.2	0.1 [2.8]

(備考)[]は前回(9月)調査結果。



2. 需要の動向

(1) 個人消費は緩やかに減少している。

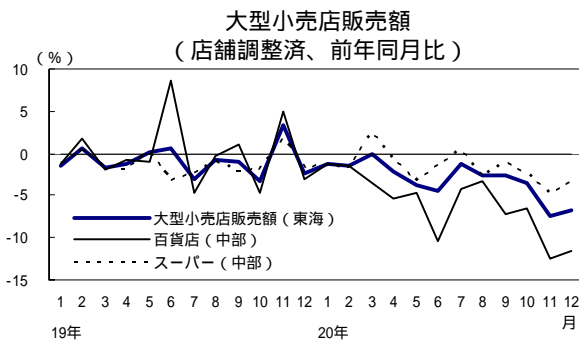
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、10月は、催事効果により飲食料品が好調だったものの、衣料品や高額品の買い控えが進んだことから、前年を下回った。11月は、金融不安に伴い消費マインドが更に冷え込んだほか、前年の地元プロ野球チームの優勝セールとの反動もみられ、衣料品、飲食料品共に減少し、前年を下回った。12月は、クリスマス商戦が不調でコート類や身の回り品の売上が落ち込んだほか、歳暮の法人需要の減退により飲食料品も振るわず、前年を下回った。なお、日本百貨店協会によると、名古屋地区の1月の売上高は、前年同月比で14.1%減となっている。

スーパーは、飲食料品がおおむね横ばいで推移したものの、衣料品が不調で、全体では前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(1月)[家計動向関連(現状)]

「リフォーム等の受注はあるが、土地売買の動きがない。新築の依頼も少ない(住宅販売会社)」など、「悪くなっている」とする回答が多くみられた。

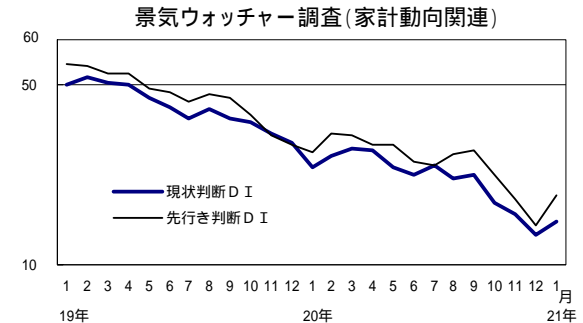
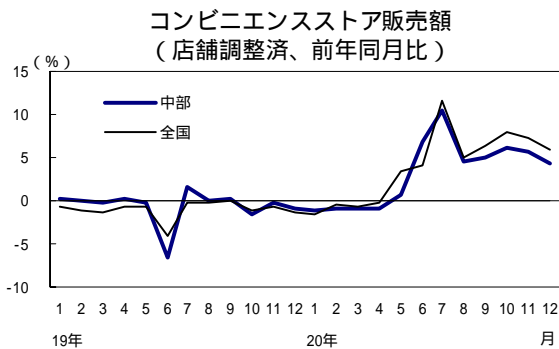


	(前年同期比、%)			
	20年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
大型小売店	0.9	3.5	2.2	6.0
百貨店	2.1	6.9	4.9	10.4
スーパー	0.3	1.8	1.2	3.6
コンビニ	1.0	2.2	6.7	5.4
景気ウォッチャー	33.8	32.4	30.5	20.5

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。

百貨店、スーパー、コンビニは中部地区。

2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。



(2) 住宅建設は減少している。

持家、分譲が前年を下回ったことから、全体でも減少している。

(3) 公共投資は20年度累計で見ると前年度を下回っている。

